

よびごえ



浄土真宗

仏光寺派
光明山
光善寺

〒915-0802

越前市北府2丁目2-18

TEL 0778-22-1222

足もと

浅田正作

なにもかも

当たり前前にしている程の

不幸が

またとあろうか

ほとけ
如来はつねに

足もとの幸せに気づけよと

おほ
仰せくださる



いつもよく働く靴屋のもとへ、あるとき、天使が現われました。乞食の姿になって…。

靴屋は乞食の姿を見ると、うんざりしたように言いました。

「おまえが何をしにきたかわかるさ。しかしね、ワシは朝から晩まで働いているのに、家族を養っていく金にも困っている身分だ。ワシは何も持っていないよ。ワシの持っているものは二束三文のガラクタばかりだ」

そして、嘆くように、こうつぶやくのでした。

「みんなそうだ、こんなワシに何かをくれ、くれと言う。そして、いままで、ワシに何かをくれた人など、いやしない」

乞食は、その言葉を聞くと答えました。

「じゃあ、わたしがあなたに何かを

あげましょう。お金にこまっているのならお金をあげましょうか。いくらほしいのですか。言ってください」
靴屋は、面白いジョークだと思いい、笑って答えました。

「ああ、そうだね。じゃ、百万円くれるかい」

「そうですか、では、百万円差し上げましょう。ただし、条件が1つあります。百万円の代わりにあなたの足をわたしにください」

「何！？ 冗談じゃない！この足がなければ、立つことも歩くこともできやしないんだ。やなこった、たった百万円で足を売れるもんか」

「わかりました。では、一千万円あげます。ただし、条件が1つあります。一千万円の代わりに、あなたの腕をわたしにください」

「一千万円…？！ この右腕がなければ、仕事もできなくなるし、可愛い子どもたちの頭もなでてやれな